

沖縄県業界

炎対バルク本格普及へ

宜野湾ガス初の補助金3点セット

宜野湾市の老健施設が10月の新規オープンに当たり災害対応バルク、非常用発電機、GHPを採用した。補助金を活用した3点セットの設置は県内初。沖縄県では炎対バルクの設置事例が少な

く、自治体や公的施設への導入提案に当たり見学の可能な実機の不足も課題になっている。年々大型化する自然災害を背景に、LPGガスによる防災エグゼアII、非常用発電機(デンヨー製40kW)、GHP(ダイキン工業製エグゼアII)、非常用発電機(デンヨー製495kg)で非常時の空調やエレベーター、照明、給水機ポンプなどの電源を賄う。炊き出し用のガス栓ボックスは2カ所に設置した。

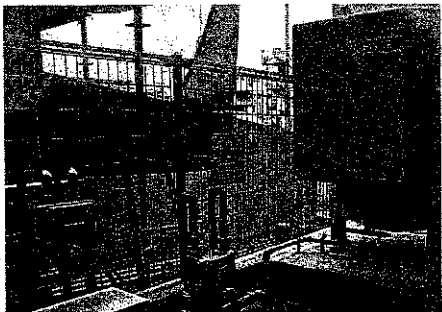


知念良和社長(左)と大城明次長

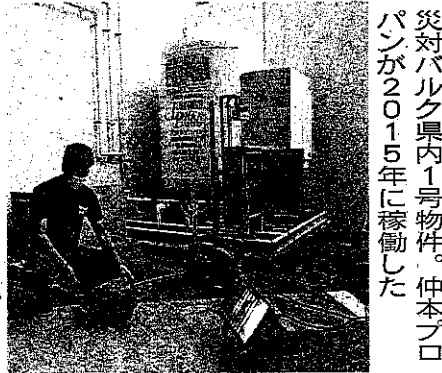
宜野湾市のふれあい介護センターが運営する「ケアビレッジふれあい我如古」が、10月1日のオープンに当たり炎対バルク、非常用発電機、GHPを採用した。グループ会社で同施設にガスを供給する宜野湾ガス(本社・宜野湾市、知念良和社長)が炎対バルク補助金申請から施工までワンストップで手掛けた。グループホーム9床、

住宅型有料老人ホーム15床などを擁する3階建ての介護総合施設。炎対バルク(エスケイシンタ―製たて型495kg)、GHP(ダイキン工業製エグゼアII)、非常用発電機(デンヨー製40kW)で非常時の空調やエレベーター、照明、給水機ポンプなどの電源を賄う。炊き出し用のガス栓ボックスは2カ所に設置した。

知念社長は「自社グループの物件なので設計段階からかわることができた。沖縄は大型台風による停電が数日間に及ぶこともあり、特に要介護老人の熱中症対策が必須。今回の設備をフル稼



10月オープンの老健施設に設置した炎対バルク(宜野湾ガス)



炎対バルク県内1号物件。仲本プロパンが2015年に稼働した

働すれば3日間しのげる。中核充填所に指定されている当社から車で10分程度の立地というのも安心感がある」と話す。

宜野湾市は再開発で大規模ホールなどの公共施設を真栄原地区に集約する計画。そうした物件への可搬式LPGガス発電機の配備が既に始まっており、炎対バルクの設置提案先としても非常に有望だ。「ハコ物の大規模施設は4〜5年がかりのプローチが必要。今回設



仲本豊専務

置した老健施設は再開発予定エリアにも近い。実際に行政に見学してもらい、災害に強いLPGガスをアピールしたい」と知念社長は力を込める。

**集合住宅を強化 仲本プロパン**

県内の炎対バルク1号物件は2015年に仲本プロパン(本社・豊見城市、仲本正社長)が、グループ会社が建てた八重瀬町の集合住宅に設置して誕生した。補助制度を活用し、石油基地等産業保安強化事業費補助金の交付を受けている。鋳物こんろ、可搬式LPGガス発電機、投光器などの防災機器も備えた。竣工時は関係者を招き試運転を兼ねた訓練を行い、防災性をアピールした。

仲本豊専務は防災士の資格を持ち、地域に密着したガス販売店の立場で防災啓発活動を展開している。防災意識に目覚めたきっかけは11年の東日本大震災。県協会の青年部活動などで被災地に何度も足を運ぶうち、沖縄の災害意識の低さに危機感を抱くようになった。

防災意識向上へ市と自治会の補助金を得て防災士資格を取得し、地域住民とLINEグループで情報発信を欠かさない仲本専務。仲本プロパン、宜野湾ガスなど系列店で組織するりゅうせきLPGガス会が設立50周年を迎えたのを機に昨年、防災士クラブの立ち上げを提唱し、会員店から4人が防災士として活動する。

「将来的には県協青年部などとタッグを組み、系列の垣根を越えた組織として業界のイメージ向上に貢献したい」と語る。